

# 令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立亀田小学校 校長 大井欣一

## 1 学校教育目標

かんがえて めあてをもって たくましく 友だち思い亀田の子

\* 「知」・「徳」・「体」の調和のとれた人づくり

- めあてをもち、自分なりの考えをもち、意欲的に学習する子
- あきらめない強い心と、やり遂げる体力のある子
- 自分に自信をもち、自分を、友だちを大切にできる子

## 2 現状の学校図書館の課題

- (1) 令和元(2019)年度末、IKEA(イケア)の支援を受けてリニューアルした図書館内だけでは、蔵書(約13,000冊)を配架し切れない。  
→ 図書館の廊下(窓側を含む)3面に、計7台の書架を設置し、0類から4類の途中まで配架している。
- (2) 全国学校図書館協議会(全国SLA)が作成している「学校図書館メディア基準」の蔵書の配分比率で見ると、蔵書構成が…、  
→ 9類：25%(SLA)→52.5%(本校)と2倍以上である。  
→ 0類：6%→1.7%、1類：3%→1.3%、2類：16%→6.6と低い。
- (3) 固定時間割で全20学級の図書館優先使用時間を決めている。  
→ 図書館支援員の勤務日：4日間(月・火・木・金)で、図書館を学級単位で自由に使える時間が4時間と少ない。
- (4) 学級単位で図書館を利用している時間に、他の学級の児童が利用を控えることが多い。
- (5) 図書館支援員の勤務日ではない水曜日に、図書館の利用が少ない。
- (6) 図書館を学級単位で利用する時間に、読書だけで終わってしまうことが多い。
- (7) 読書感想文や図書館を活用した調べる学習を、自信をもって指導できる教員が少ない。

## 3 今年度の学校図書館の目標

- (1) 本を、1冊でも、1ページでも多く読もうとする意欲を高める。
- (2) 図書館資料を積極的に活用させて、「調べる学習」を推進する。
- (3) 中休みや昼休みなど、授業時間以外での児童の来館回数(利用)を増やす。
- (4) 蔵書構成を改善したり、配架や展示を工夫したりして、図書館の環境整備を進め、児童や教員が利用しやすい図書館をつくる。

## 4 今年度の重点取組

- (1) 年間を通して、計画的・継続的に図書館を利用して学習させる。
- (2) ICT機器だけでなく、(新聞を含め) 図書館資料を活用した「調べる学習」の授業を積極的に行う。
- (3) 司書教諭が中心となり、図書館支援員の意見も参考にして新刊本等の選書・購入を行い、全国学校図書館協議会(全国SLA)が提示している蔵書の配分比率に近づける。
- (4) 図書館廊下の面出し展示コーナーや、図書館支援員担当の掲示板での広報活動(毎週更新)等、児童に向けて年間を通して、計画的・継続的に仕掛けを施す。
- (5) 貸出冊数を、通常:5冊、読書旬間期間・長期休業前:6冊とする。  
さらに、読書旬間に「貸出冊数:プラス1冊券」を発行し、児童がより多くの本を借りたり、読んだりする機会を増やす。
- (6) 複数の児童が読みたい本を公平に届けるため、「本の予約制度(1名につき1冊)」を導入・定着させる。

## 5 教科等における年間指導計画(対象学年は○数字で記載)

教科	内容(学校図書館を活用して取り組む単元等)
国語	①としょかんへいこう      ①としょかんとなかよし      ①じどうしゃくらべ ②本でしらべよう      ②「生きものクイズ」でしらせよう ②ひろがる読書のせかい      ②「お話びじゅつかん」を作ろう ③本は友だち      ③仕事のくふう見つけたよ ③本で知ったことをクイズにしよう      ③おすすめの一さつを決めよう ④漢字辞典      ④分類をもとに本をみつけよう      ④読書の広場 ④みんなが使いやすいデザイン ⑤作家で広げるわたしたちの読書 ⑥パネルディスカッション      ⑥みんなで作ろうパンフレット
社会	③昔の道具について調べよう ④都道府県      ④ごみのゆくえ      ④水はどこから      ④東京都の伝統や文化 ⑤米作りのさかんな地域      ⑤情報をいかして発展する産業 ⑥日本国憲法と政治のしくみ
算数	③記ろくを整理して調べよう ⑥データを使って生活を見なおそう
理科	③春の生き物 ④動植物の様子 ⑥動物のからだのはたらき      ⑥変わりつづける大地      ⑥地球に生きる
体育	③健康な生活 ⑤病気の予防 ⑥病気の予防
生活	②めざせ、生きものはかせ

外国語	③アルファベット
総合	③オリパラはかせになろう ④福祉・防災（広げよう！ふれ合いの輪） ⑤SDGsを深めよう

## 実践の評価

### ■第1学年

◎「としょかんとなかよし」では、児童一人一人がおすすめの本を選び、それを持った写真を撮影した後掲示して、お互いの「おすすめの本」を知ることができるようにした。

児童は、図書館にあるたくさんの本の中から、おすすめの本を選ぶことができた。

◎「じどうしゃくらべ」では、図書館支援員（司書）が予め選定した自動車に関する本を利用して調べる学習を実施した。

すべての児童が、自分が調べたい自動車に関する本を選び、必要な情報を読み取り、書き表すことができた。

図書館支援員（司書）に、予め本を選定していただけたことがよかった。

### ■第2学年

◎ 図書資料を活用することで、分類法への意識や要約する力を高めることができた。

### ■第3学年

◎ 上に記載したほとんどの単元で、図書館の本を活用することができた。

◎ 通常、手に取らないジャンルの本でも、学習の内容とリンクさせていくことで、児童の興味や関心（や必要感）が一気に高まる様子を見ることができた。

### ■第4学年

◎「みんなが使いやすいデザイン」では、図書館を活用し、防災に対する備えを調べた。

◎ 総合「広げよう！ふれ合いの輪」では、点字やバリアフリーなどについて調べる学習で活用した。

### ■全体

▲ 年間指導計画を活用して、計画的・継続的に図書館活用をしていくことが課題である。

▲ 第1・2学年は、図書（館利用）の時間を担任ではなく、家庭科専科が担当している。

→ 事前及び事後の指導について、担任と専科間で情報を共有できていない部分がある。

→ 担任が専科に依頼する形での授業となることがあり、積極的な実施にならないことがある。

## 6 図書館運営計画

### (1) 日常的な取り組み

①読書時間を確保する。

→ 全20学級が、固定時間割で週に1時間ずつ図書館優先使用時間を入れる。

②図書館支援員の勤務日：4日間（月・火・木・金）、図書館で本の貸出・返却を行う。

→ 中休みと昼休みに、本を借りたり返したりすることができる。

③全20学級の教室に、児童数+αの本を「学級文庫」としてブックケースで常設する。

→ 長期休業後、学年内でブックケースごと入れ替えをする。

児童の身近なところに、「本がいつでもある」状態にし、本に親しみやすくする。

④「国語科」教科書掲載本コーナーを設置する。

- 各学年の教室付近の廊下に、ブックケースで常設する。
- 9月以降、図書館内にコーナーを移設する予定である。
- より多くの学年の児童が、教科書掲載本を読みやすくする。

⑤全国学校図書館協議会（全国SLA）が発行している、

- 「学校図書館 読書と学びかたノート（低学年用）」、
- 「学校図書館 学びかたノート（中学年用・高学年用）」を活用する。

⑥全国学校図書館協議会（全国SLA）が選定している「えほん50」コーナーを常設する。

- リーフレットを全校児童に配布する。
- 希望する児童には、司書教諭が作成した「えほん50リスト」を配布する。

⑦全国学校図書館協議会（全国SLA）が選定している「緑陰図書」コーナーを常設する。

⑧学力向上部と連携し、年間を通して新聞6紙の「第一面」を掲示する。

- 「新聞一面比べ読みコーナー」（2階：廊下掲示板）
- 新聞に興味や関心をもたせる。

## （2）主な行事の取り組み

### ①読書旬間：年3回

- 【第1回】 6月 → 本を「たくさん」読もう。  
低学年：冊数、中・高学年：ページ数
- 【第2回】 11月 → 「様々な分野（類）」の本を読もう。  
読書ビンゴ
- 【第3回】 2月 → 「おすすめの本」を紹介しよう。  
本の魅力を発信する。

### ②おはなし給食

- 読書旬間に合わせて実施
- 給食の献立に入れ、全校児童が「本の世界」を体験する。

## （3）図書委員会などの取り組み

### ①読書クイズ

### ②図書委員会掲示板の活用

- おすすめの本や新刊本（新しい本）を紹介する。

### ③昼の放送を活用した広報活動

- イベントを告知する、おすすめの本を紹介する 他

### ④貸出冊数：プラス1冊券の発行

- 読書旬間に実施する「読書クイズ」の正解児童へ贈呈する。

## （4）環境整備の取り組み

- ①年次計画で、絵本を除く蔵書の請求記号をすべて「3桁」に統一し、本の分類への理解を深めさせ、必要な本を見つけやすくする。
- ②図書館廊下の壁面に書架1台を補充し、計7台になる書架の配置換えを行う。
- ③図書館廊下壁面（計2面）の書架上に、本の「面出し」展示用スペース各2段・計4段を新設する。
- ④図書館内と廊下に配架している本の入替えをする。  
→ 0類の本から図書館内に配架する。

絵本（E）や9類（の一部）を廊下に配架する。

⑤蔵書点検による**長期間不在本**を積極的に**除籍**する。

⑥**長期間未貸出本**をリストアップ、紹介・展示し、**活用を促進**する。

#### （5）図書館支援員（司書）・外部との連携

①**図書館支援員**担当の掲示板を活用して、効果的な**本の紹介**（毎週更新）をする。

②**図書ボランティア**による**読み聞かせ**を行う。

→ 読書旬間に合わせて、第1～3学年で実施する。

朝読書の時間を活用する。

③**業務計画会議**（月1回開催）で、図書館支援員と**意見・情報交換**をしたり、**新企画**を練り上げたりする。

④**図書館支援員**が作成する「**貸出利用者統計リスト**」を活用し、全20学級の**利用状況を確認**したり、**課題の明確化**を図ったりする。

⑤**図書館支援員**による、児童への**図書館オリエンテーション**（4月）を実施する。

⑥**図書館支援員**による、各教科等の「**年間指導計画**」を見据えた**資料・情報の準備、提供**をする。

⑦**学校図書館スーパーバイザー**に、**図書館全般に関する相談**をする。

⑧**学校図書館スーパーバイザー**に依頼し、「**読書感想文**」や「**調べる学習**」等の**研修**を実施する。

### 実践の評価

◎「国語科」教科書掲載本コーナーを、各学年の教室付近の廊下から図書館内に移設した。

→ 他学年の児童が、興味や関心をもって、読んだり借りたりするようになった。

◎全国学校図書館協議会（全国SLA）発行の、「学校図書館 読書と学びかたノート（低学年用）」、「学校図書館 学びかたノート（中学年用・高学年用）」を活用して、図書館での学習を進めた。

→ 児童の学びを深めることができた。

◎全国学校図書館協議会（全国SLA）選定の「えほん50」コーナーを廊下に新設した。

→ 児童が、興味や関心をもって本を手に取り、読んだり借りたりしていた。

高学年児童が、改めて絵本を読むきっかけをつくることができた。

▲学力向上部と連携し、年間を通して新聞6紙の第一面を掲示している「新聞一面比べ読みコーナー」（2階：廊下掲示板）

→ 6紙（朝日・産経・東京・日本経済・毎日・読売）の第一面を並べて掲示するだけになってしまった。

→ 令和5年度のように、同じ内容の記事を色囲みするなど、ひと工夫した掲示をすることができると、児童がより一層、新聞に興味や関心をもって見ることができている。

◎ 長期間未貸出本をリストアップ後、廊下の面出しコーナー等に紹介・展示した。

→ 児童が、興味や関心をもち、それらの本の大半を借りていった。

→ 埋もれていた本（＝財産）を有効活用することができた。

◎ 図書委員会：司書教諭担当掲示板（3階・PC室廊下2面、生活・総合室廊下2面、計4面）を活用して、司書教諭が1年間で1,000冊以上チェックして選定した本の中から、児童に自信をもって薦められる「おすすめの本」や「新刊本（新しい本）」を紹介するコーナーを新設した。

→ 司書教諭が掲示した後、図書館支援員（司書）の発案で、掲示した本の中で、児童が読みたい（図書館に購入してほしい）本にシールを貼る活動を取り入れた。

→ 児童が、どのような本に興味や関心をもっているかを、司書教諭や図書館支援員（司書）が知る

ことができ、今後の選書の参考にすることができた。

◎ 令和6年度の途中から納品されている雑誌を有効活用した。

→ 図書館内に「雑誌コーナー」を新設し、児童がその存在に気づきやすくし、興味や関心をもって読めるようにした。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	○図書館資料を活用した「調べる学習」を、1年間で1単元以上実施する。	○全20学級が、教科等で実施	◎ 全学級実施
②	○前年度（令和5年度）よりも、児童1名あたり「1年間の貸出冊数」を増やす。	○前年度の64.0冊を上回る冊数	◎ 74.1冊
③	○「学校図書館 読書と学びかたノート（低学年用）」、「学校図書館 学びかたノート（中学年用・高学年用）」を使用して学習し、図書館の利用や活用に活かす。	○全20学級が、使用して学習を展開	◎ 全学級展開

## 8 学校図書館全体に関する自己評価

◎ 本年度、購入する本（図書）を決めるにあたり、図書館支援員（司書）が示した本校の蔵書構成比率を受け、司書教諭が、ほとんどの本（図書）を選書した。

→ 9類の本の比率を、「(令和5年度末) 52.5% → (令和6年度末) 49.1%」と、50%未満にすることができた。

→ 全国学校図書館協議会（全国SLA）が示す25%には程遠いが、今後も9類の本の購入を抑え続け、確実に比率を下げっていく。

◎ 図書館廊下の壁面に書架1台を補充し、計7台になる書架の配置換えを行った。

図書館廊下壁面（計2面）の書架上に、本の「面出し」展示用スペース各2段・計4段を新設した。

→ 図書館の廊下部分の雰囲気を一掃することができた。

本を常時100冊以上、表紙が見える状態で展示することができるようになったことで、児童の興味や関心を高めることができた。

→ 展示している本を、児童が実際に手に取るが増えた。

→ 展示している本が、次々と借りられていった。

→ 朝、展示した本の大半が、午前中にほとんどなくなる（借りられる）こともあった。

◎ 児童1名あたり貸出冊数が、前年度（64.0冊）よりも10冊以上増え、74.1冊となった。

→ 特に、第2・3学年では、すべての学級で100冊を超えた。

▲ 第1学年は、担任裁量で、貸出冊数を3冊までとした。

→ 前年度（88.7冊）よりも25冊以上減り、63.5冊となった。

▲ 第4学年は、年間を通して図書館利用が極めて少なかった。

（学級によっては、1か月の貸出冊数が0冊のこともあった）

→ 前年度（51.0冊）よりも15冊以上減って35.4冊となり、この6年間の第4学年での最も少ない貸出冊数となった。

（最多：令和4年度 → 68.7冊）

→ 次年度：令和7年度の第5学年の担任が、授業で図書館を計画的・継続的に利用し、児童に再び読書等の習慣をつけさせることが喫緊の課題である。

◎ 第2・3・5・6学年は、この6年間で最も貸出冊数が多くなった。

→ 第2学年：107.7冊、第3学年：119.0冊、第5学年：63.9冊、第6学年：53.9冊。

→ 高学年が、積極的に図書館を利用し、本を読んだり借りたりしている。

→ 次年度：令和7年度、進級した学年（学級）を受け持つ担任が、児童の図書館利用の習慣を継続させることが重要である。

▲ 読書感想文や調べる学習の指導に関して、学校図書館スーパーバイザーを招いて研修することができなかった。

→ 令和7年度は、早い時期に講師依頼をして、教員が研修する機会を設ける。

読書感想文、調べる学習とも、自信をもって指導できる教員を育成していく。

★ 図書館長である校長が作成する、この「学校図書館活用計画」を受け、司書教諭が中心となり、図書館支援員（司書）と連携しながら、全教職員が共通理解を図り、年間を通して計画的・継続的に図書館活動（共通行動）を進めていくことが重要である。

★ 本年度、司書教諭の提案で図書館廊下の展示環境を一新した結果、児童の図書館・本への興味や関心をより一層高めることができた。

★ 「学校図書館 読書と学びかたノート（低学年用）」、「学校図書館 学びかたノート（中学年用・高学年用）」を活用することで、児童の図書館活用能力を高めることができた。

→ 次年度：令和7年度も、これらを継続して活用させることで、児童の読書だけでなく、調べる（探求する）力も確実に育成していく。